

肥前国最大規模の戦国期城館跡

～少弐氏・江上氏の居城～

勢福寺城は、標高196mの城山頂上に築かれた山城跡です。正平8年(1353)に九州探題一色直氏により築城され、一色氏・菊池氏・少弐氏・江上氏が代々城主となり天正17年(1589)に蓮池に移城し廃城となっています。

この地は、南北朝時代の要衝の地にあり、九州の名族である少弐氏の本拠とされ、少弐政資・少弐資元・少弐冬尚とこの城を拠点とし、少弐氏滅亡の後には江上氏の居城となり、龍造寺氏による改造がなされた肥前国最大規模の戦国山城です。

山頂山城跡は、中央部の大規模な堀切を境に南域と北域の縄張りに区分されます。本格的発掘調査が行われていませんが、縄張り構造の特徴より、南域は古段階で少弐氏期に、北域は新段階で江上氏・龍造寺氏期と考えられています。山麓部には、城山の東麓の伊勢福寺溜池北の谷部に長大な横堀に守られた居館と推定される曲輪群が存在しています。さらに、城原川に向かって張り出す台地上には、通称「雲上の城」と呼ばれる居館跡が残され、現状で南北240m・東西380mの非常に大規模な遺構群です。城山南麓の種福寺東尾根には、城下町域と城域とを区切る外塁線となる大規模な空堀群が構築されています。南部台地上には、「元屋敷」や「市場」の地名が残され、堀により区画された城下町が形成されています。城山南麓には、江上家種の開基である曹洞宗西谷山種福寺が天正7年(1579)に建立され、江上家種の五輪塔をはじめ、城原衆やその子孫の墓が残されています。

勢福寺城跡と城下町遺跡は、少弐氏という守護の城と城下町が残存し、全国的にも希少な室町期の大名居館遺跡で、北東に所在する肥前安国寺とともに日本の城下町の起源にあたる貴重な中世の遺跡と評価されています。



勢福寺城跡へは、種福寺東脇より登山道を整備しています。山頂まで約60分程です。

勢福寺城跡見学用登山道

城山山頂の勢福寺城跡には、麓の種福寺より登山道があり、山頂まで約60分ほどで山頂へ行くことができます。種福寺の駐車場を利用できます。

⑨空堀群

種福寺の東の谷から尾根には、L字状に掘られた空堀と土塁が築かれています。勢福寺の山城跡と高速谷奥の館部分を守る防御施設です。



①東より望む、勢福寺城跡が築かれた「城山」

勢福寺城跡と城下町遺跡ルートは、「城山」に築かれた山城跡コース(山頂まで約60分)と、山麓台地状に形成された城下町と関連遺産を巡るコース(約7.0km)に分かれています。



①勢福寺城跡

標高196mの急峻な山容を持つ城山山頂に築かれた山城跡です。中央部に巨大な堀切があり、南北に二分された曲輪の配置が認められます。構造より、南地区は少弐氏段階、北地区は龍造寺系江上氏段階の曲輪群と考えられています。



⑪伊勢福寺池北居館跡

城山の東麓谷部に位置する曲輪群で、北端を三重の空堀と土塁で防御した大きく3段の平坦区画が形成されています。曲輪の構造より江上氏段階の居館ではと推定されています。



⑫雲上の城

勢福寺城跡の東南台地上に築かれた城館跡で、東西約380m・南北約240mの広大な館跡です。大きく東西に分かれ、西地区が主郭と思われます。その構造寄り少弐氏段階の城館と推定されています。



②発掘された屋敷跡

「元屋敷」地区の南端部に建てられていた屋敷で、ほぼ全体像が発掘調査により確認されています。東半部(左側)に4棟以上の建物が確認され、西半部には畠跡と屋敷墓などが付属していることが分かりました。



③④土塁跡

「元屋敷」地区は、家臣たちの屋敷空間と考えられます。屋敷の周囲や屋敷群の周囲には、土塁などで区画や防御されていたと推定されます。現在、元屋敷地区の南端部の住宅北に土塁の一部が残存しています。



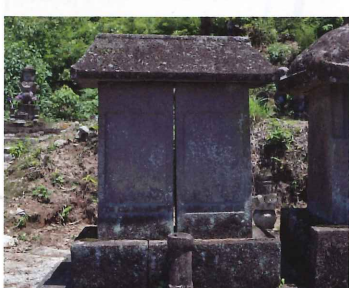
⑤種福寺

曹洞宗西谷山種福寺は、江上家種開基で、『種福寺草創記』に天正7年(1579)に死去した江上武種の墓近くに建立されたとされています。鍋島内記・深江信溪・深江信章兄弟により現在の城原に再興しています。



⑥江上家種の墓

龍造寺隆信の次男で、江上武種の養子となり江上又四郎家種と改め勢福寺城城主となります。慶長元年秀吉の朝鮮出兵に参陣し、慶長2年釜山で死去しています。墓は、種福寺西の最も奥に、五輪塔が建立されています。



⑦江上家種の室「於二九」の墓

大村城主大村純忠の次女で、天正5年(1557)に江上家種に嫁いでいます。墓碑には「法名香山芳春大姉」と刻まれています。なお、於二九の墓は大村市の長安寺にもあります。



⑧「元屋敷」地区

台地上の水田部は「元屋敷」の地名があり、家臣の屋敷地があった区画と考えられています。発掘調査により一辺20m～30mほどの方形区画を持つ屋敷が建ち並んでいたことが確認されています。南側と東側は、大規模な堀により区画されていました。



⑩伊勢福寺社

大治元年(1126)「櫛田宮大宮司職補任状案」に「成福寺社」とあり、太宰少弐頼尚を祭神とすると伝えられています。現在は、社殿の位置は定かではありませんが、石橋と公民館に「伊勢福寺下宮」の石祠が残されています。



⑬⑭空堀跡・⑮市場地区

勢福寺城の城下町が形成されていた台地上には、「元屋敷」や「市場」の地名が残っています。「元屋敷」と「市場」地区は大規模な堀により区画されていました。現在、台地上を東西に走っている道路の南に隣接して幅約5m～10mの細長い水田区画が残されています。「元屋敷」と「市場」地区を区画する東西空堀跡です。東端部は、城原川に接続しており、この部分は幅20m以上・深さ約5mほどの大規模な空堀が残されています。また、「元屋敷」地区の東端部には、南北方向の堀が掘られており、市場地区の北を東西方向に掘られた堀と接続し、区画されています。



⑯真正寺

永禄2年(1559)に自害した少弐冬尚の菩提を弔うために、少弐氏重臣西善通とその子教通により建立されています。勢福寺城内にあった持佛堂を冬尚の墓に隣接した場所に移し念仏三昧の道場とし、現在の真正寺となります。



⑰少弐冬尚の墓 少弐氏由緒碑

少弐氏最後の当主で、龍造寺隆信の勢福寺城攻めにより永禄2年(1559)に自害し、九州の名族少弐氏は滅亡しています。冬尚の墓は、真正寺の裏手にあり、五輪塔と少弐氏の由緒を記す碑が残されています。



⑱安養寺

明応5年(1496)少弐政資の開基と伝えられる黄檗宗報恩山安養寺です。少弐政資は、少弐氏15代当主で、父教頼の死後少弐氏を再興。大内氏・渋川氏より明応6年(1497)多久専称寺にて自害しています。



日の隈山山頂より望む、勢福寺城跡城下町

左上部に、勢福寺城跡が築かれた城山があり、麓に「種福寺」が、中央の森の部分に城主の居館跡と推定される「雲上の城」が築かれ、中央部の水田部が「元屋敷」地区、右端に「市場」地区が配置されています。